

1. 科目名 (単位 数)	保育児童基礎演習 (2単位)	3. 科目番号	GEBS2106
2. 授業担当教員	関 容子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育士資格取得に際して必修となる保育実習を見据え、保育実習 I 直前に開講される「保育実習指導 I」に先立っておこなわれる実習事前基礎学習を目的とする。実習生としての基本的な心構えやマナー、および基礎知識について具体的に学べるようにする。</p> <p>2年次秋学期実施の保育所実習、3年次春学期実施の施設実習に備え、実習概要の理解、実習日誌記録上の注意点や保育実技の習得ができるよう講義と演習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての心構えを体得する。 2. 保育実習の基本的知識や実習の概要を理解し、説明することができる。 3. 保育実習 I に備え、保育所実習、施設実習の意義や実習園の概要などを調べ学習し説明することができる。 4. 保育教材を作成し、教材を活用して環境構成の意味を習得する。 5. 基本的な保育技術(手遊び・読み聞かせなど)の習得および教材製作について学び、実践することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習にあたっての心構えに関する課題 2. 実習記録の作成に関する課題 3. 保育技術、教材作成に関する課題と提出物 4. 保育実践で活用するための教材ノートの作成と提出 5. その他 (授業内のワークシート、リフレクションシート) 		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』名須川知子監修 萌文書林、2023年 『自分をいかす保育実習ハンドブック』関口はつ江編著 大学図書出版、2022年</p> <p>【参考書】 東京福祉大学「保育実習の手引き」 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』 その他 授業内で適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての心構えを体得できるか。 2. 保育実習の基本的知識や実習の概要を理解し、説明することができるか。 3. 基本的な保育技術(手遊び・読み聞かせなど)の習得および教材製作について学び、実践することができるか。 <p>○評定の方法 個別の授業態度、グループ活動への取り組み、提出物及びレポートを総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度及びグループ活動への取り組み 60% 2. 各提出物 40% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>実習は、子どもたちが生活するなかに入り、実際に触れ合うことのできる大切な場である。そのため、十分な心構えと自覚、専門的知識と技術の準備が必要となる。保育者になるために求められることは、広範囲に渡る。身に付けた学びが保育のなかで生かされ、子どもたちの育ちに影響を与えることを考えるとき、授業での学びは大変重要な意味をもつ。現場での子ども様子をイメージし、子どもの心の内はどんなだろうか、どんな表情を見せるだろうかと想像しながら一つひとつの学びに取り組んでほしい。</p> <p>保育実習についての不安や質問事項については、授業内で共有し、実習直前になって慌てることのないよう、準備が必要である。教材研究ノート作成に、情報カード B6 判 2 穴を用意しておくこと。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス —実習とはなにか 保育実習・教育実習の概要と履修方法、実習目的など—	事前学習	「保育所保育指針」第 1 章をよく読み保育所の役割と保育士の仕事について理解する。実習生としての態度や心得について、考えをまとめる。
		事後学習	「保育士倫理綱領」中のプライバシーの保護について考えをまとめる。『保育実習の手引き』『保育実習施設について』(p.8)を読み、実習先施設について理解する。
第 2 回	保育所実習の基礎知識 —認定こども園の基礎知識 —DVD で学ぶ保育所、認定こども園の一日	事前学習	保育所、認定こども園について、一日の生活の流れをイメージしておく。
		事後学習	保育所と認定こども園の一日の生活のながれの違いについて理解し、実習生としての心構えと留意点を整理する。
第 3 回	保育現場における生活場面を考えてみる	事前学習	どんな場面があるのかを考えてみる
		事後学習	子どもの発達に応じた場面の違いや留意点

			について考え、気付きをまとめる。
第4回	教材研究と保育技術(表現)の習得① 保育環境や子どもの興味、関心、発達状況に応じた教材の考え方	事前学習	0歳～6歳までの発達過程を予習しておく。
		事後学習	実習をイメージし、教材研究ノートの作成の準備をする。
第5回	教材研究と保育技術(表現)の習得② (様々な表現方法を用いての演じ方の研究) 乳児を対象に絵本、紙芝居、おもちゃなどを考える	事前学習	対象年齢を想定し、実習で読み聞かせをしたい絵本・紙芝居を選び、持参する。
		事後学習	教材研究ノートに対象年齢に応じた絵本、紙芝居、おもちゃなどのリストを作成する。
第6回	教材研究と保育技術(表現)の習得③ (様々な表現方法を用いての演じ方の研究) パペットの活用、わらべうた、手遊び、乳児保育	事前学習	乳児保育をイメージし、パペット、わらべうた、手遊びなど、実習で実践したいことを準備してくる。
		事後学習	教材研究ノートに乳児保育をイメージし、パペット、わらべうた、手遊びなどのリストを作成する。
第7回	乳児を対象とした教材研究と発表 教材ノートを見直し、身に付けた技術を発表する	事前学習	乳児保育をイメージし、パペット、わらべうた、手遊びなどの、発表の準備をする。
		事後学習	教材研究ノートに乳児のための玩具やわらべうた等をまとめる。
第8回	教材研究と保育技術(表現)の習得④ (様々な表現方法を用いての演じ方の研究) 絵本、紙芝居、幼児	事前学習	実習で読み聞かせをしたい絵本・紙芝居を選び、持参する。
		事後学習	教材研究ノートに、対象年齢や季節感を考慮した絵本、紙芝居のリストを作成する。
第9回	教材研究と保育技術(表現)の習得と発表⑤ (様々な表現方法を用いての演じ方の研究) エプロンシアター、パネルシアター、手袋シアター、パペット、手遊び、ゲーム、幼児	事前学習	エプロンシアター、パネルシアター、手袋シアターについて調べ、持参する。
		事後学習	教材研究ノートに、対象年齢と共に、エプロンシアターやパネルシアター、手袋シアター、手遊び、ゲームについて、演じる際の留意点を整理する。
第10回	模擬保育 それぞれが考え、準備した内容をグループ内で演じ、保育場面や時間配分、導入や流れについて組み立ててみる。	事前学習	模擬保育の準備をしておく。
		事後学習	ふさわしい保育場面、導入や発表内容、手順、留意点について考える。
第11回	準備とグループ発表① グループ内で組み立てた内容を、子どもたちを前に演じることを想定し、代表者が導入から発表まで演じてみる。	事前学習	グループ内で話し合い、模擬保育の準備を進めておく。
		事後学習	互いの発表を振り返り、取り入れたいアイデアや改善点について整理する。この活動からの発展やアレンジには、どんな方法があるのかについて考える。
第12回	グループ発表②	事前学習	発表準備をする。
		事後学習	互いの発表を振り返り、取り入れたいアイデアやアレンジ方法など、活動の広がりやその後の見通しを考える。
第13回	実習記録について 記録の意義と書くポイントを理解する。 ・時系列記録とエピソード記録の書き方 ・施設のDVDを視聴し、記録を書いてみる(利用者の動き、実習生のかかわりの記入のしかたを学ぶ)	事前学習	『保育実習学習の手引き』「実習における留意事項 2. 実習記録について」(pp.17-28)を熟読しておく。保育施設の一日の流れ、場面ごとの環境や生活について予習しておく。
		事後学習	配布資料「保育を見る着眼点」等から振り返り、気づいたことを整理する。
第14回	実習記録について ・記録の実際と省察 ・実習生の気づき、考察の意義と書き方を理解する。	事前学習	保育を振り返る行為から、どのような力が養われるかについて、考えておく。
		事後学習	配布資料等から振り返り、気づいたことを整理する。
第15回	実習に臨むにあたって 一先輩の実習体験から学ぶー 総括	事前学習	1～14回の授業をとおしての学びを踏まえ、保育実習に関する学びを整理する。
		事後学習	自己課題を整理し、実習に向けて具体的な準備に取り掛かる。